

令和 4 年 12 月 19 日

あなたが支える市民活動応援事業実績報告書

大分市長 佐藤 樹一郎 殿

所在地 大分市古国府2丁目2番19号
 団体名 NPO法人 大友氏顕彰会
 代表者氏名 理事長 牧 達 夫
 電 話 090-5386-7318
 担 当 [REDACTED]

あなたが支える市民活動応援事業補助金交付要綱第13条の規定により、下記のとおり報告します。

記

- 1 交付決定年月日 令和 4 年 9 月 1 日
- 交付決定番号 協働第 858 号
- 2 事業名 大友氏顕彰フォーラム

- 3 補助金の交付決定通知額 300,000 円

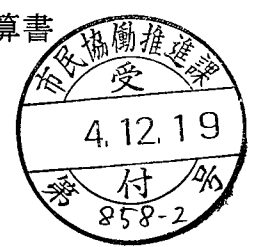
- 4 補助金の概算交付額 300,000 円

- 5 補助金の精算額 300,000 円

- 6 事業の成果

大分市で11回目の「大友氏顕彰フォーラム」に150人もの市民の出席をいただく。今回も新型コロナウイルス感染防止対策として、定員300人を200人に制限し、検温・除菌等を実施。冒頭、募集していた『私の大友宗麟』エッセー作品の結果発表があり、特選(1人)入選(7人)佳作(10人)準佳作(11人)特別賞(5人)が受賞された。パネルディスカッションでは、現在放送中の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にちなみ、初代から3代までの鎌倉将軍と大友氏の関わりを分析した。講話では九重町出身の櫻田啓(作家)氏による「天正遣欧少年使節」として4人の少年が選ばれたいきさつ、熱狂的に歓迎されたイタリアのローマ教皇との謁見、帰国後の秀吉との謁見、その後のキリスト教禁令下における過酷な生き方等々を話された。座談会では「大河ドラマ化に向けた各自治体活動・連携を探る」として柳川市・新宮町・大分市各代表による活動が報告され、大河ドラマ化に向けた各自治体と連携を強めていこうと集約された。

- 7 添付書類 (1) あなたが支える市民活動応援事業補助金申請事業報告書
 - (2) あなたが支える市民活動応援事業補助金申請事業収支決算書
 - (3) 活動目標に関する報告書
 - (4) その他市長が必要と認める書類
- (この内容は、大分市のホームページ等で公表いたします。)



あなたが支える市民活動応援事業補助金申請事業報告書

団体名	NPO法人 大友氏顕彰会			
事業名	大友氏顕彰フォーラム			
主な活動地域	<p>※ 該当する□にチェックしてください。【 】の中は校区となっています。</p> <p><input type="checkbox"/> 大分中央【金池、荷揚、長浜、中島、住吉】</p> <p><input type="checkbox"/> 大分西部【春日、大道、西の台、八幡】</p> <p><input type="checkbox"/> 南大分【豊府、南大分、城南、荏隈】</p> <p><input type="checkbox"/> 滝尾【滝尾】</p> <p><input type="checkbox"/> 城東・原川【津留、東大分、日岡、桃園】</p> <p><input type="checkbox"/> 明野【明野】</p> <p><input type="checkbox"/> 鶴崎【鶴崎、三佐、別保、明治、高田、松岡、川添】</p> <p><input type="checkbox"/> 大南【戸次、判田、竹中、吉野】</p> <p><input type="checkbox"/> 植田【植田、宗方、横瀬、東植田、寒田、敷戸、駕野、賀来】</p> <p><input type="checkbox"/> 大在【大在西、大在】</p> <p><input type="checkbox"/> 坂ノ市【坂ノ市、小佐井、丹生】</p> <p><input type="checkbox"/> 佐賀関【本神崎、木佐上、大志生木、佐賀関、一尺屋】</p> <p><input type="checkbox"/> 野津原【東部、中部、西部、今市】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 市内全域</p>			
実施時期 実施場所 実施内容 (目的・経過等)	時期 (月)	実施場所	受益 対象者数	実施内容 ※ 目的・経過等をできるだけ詳細に
	11月 5日 (土曜) 13時 17時	コンパル ホール 3階 多目的 ホール	参加総数 150人 参加内訳 ①会員参加 50人 ②一般参加 100人	<p>○ 大友氏顕彰フォーラム</p> <p>○ 当会の目標として「大友氏の顕彰とNHK大河ドラマ化」を目指しており、これが実現すれば大分県が全国的に知れ渡り、観光および地域の活性化を図ることができるので、本フォーラムを大分市での結集の場として開催した。</p> <p>○ 冒頭、「私の大友宗麟」エッセー作品の結果発表があり、特選(1人)入選(7人)佳作(10人)準佳作(11人)特別賞(5人)34人が受賞された。パネルディスカッションでは、現在放送中の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にちなみ、初代から3代までの鎌倉将軍と大友氏の関わりを分析した。講話では、櫻田啓(作家)による「天正遣欧少年使節」として4人の少年が選ばれたいきさつ、熱狂的に歓迎されたイタリアのローマ教皇との謁見、帰国後の秀吉との謁見、その後のキリスト教禁令下における過酷な生き方を話された。座談会では「大河ドラマ化に向けた各自治体活動・連携を探る」として柳川市・新宮市・大分市各代表による活動を報告、大河ドラマ化に向けて連携を強めると集約。</p>
※ 別紙添付可				

<p>使用した 広報手段 とその効果</p>	<p>使用した広報手段（チラシの作成、ホームページ、パンフレットの作成等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ チラシを 3000枚作成し、会員、市民、企業や団体等に配布。 ○ 新聞掲載（大分合同新聞） ○ 大友氏顕彰会のホームページに掲載。 <p>今年度行った広報の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今回は新型コロナウイルス感染防止対策として、定員300人を200人に制限するなど難しい対応を迫られ、150人の参加者となった。 ○ フォーラム参加者は150人で、内訳は 会員 50人、一般 100人となる。
<p>事業の成果</p>	<p>地域への効果について（事業を実施した結果、対象地域にどのような効果があったのかを、できるだけ詳細に記入してください。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大分県民も「大友氏、大友宗麟」のことをよくは知らない方々が多いので、これまでフォーラムを15回開催し、①平成23年100人 ②平成24年270人、③平成25年400人、平成26年は④大分市 250人、⑤臼杵市 250人、平成27年は⑥大分市 430人、⑦竹田市200人、平成28年は⑧大分市300人、⑨豊後高田市250人、平成29年は⑩大分市200人、⑪玖珠町200人、平成30年は⑫大分市300人、令和元年は⑬大分市225人、令和2年度は⑭大分市200人、⑮佐伯市で220人、令和3年度は⑯大分市で100人、⑰日田市100人令和4年度は⑱大分市150人で盛り上げを示し、宗麟公まつり等大分市全体の取組みもあり 大友宗麟の知名度が少しずつ上がってきている。 <p>市民への効果について（市民にとってどのような効果があったか、市民福祉の向上にどうつながったのかを、できるだけ詳細に記入してください。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大友氏は鎌倉時代から戦国時代末期まで、豊後府内(大分市)を中心として400年間も統治したことから、昔から大分に居住している人は、みんな大友氏と深い関係があり、郷土史を学ぶことによって、「自分はどのようにして大分に居住しているのかというルーツを知ることができた」という参加者のアンケート結果がたくさん出ている。
<p>来年度に向けた 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大河ドラマ化には地元の盛上げが必要で、今後の会員拡大が課題。また大友宗麟は九州6カ国を統治したことから、大分県内はもとより、県外での大友氏ゆかりの地との広域連合活動と会員組織化が課題。 ○ 大友氏顕彰フォーラムは、これまで12回大分市で開催してきましたが、県民全体の盛り上げが必要なので地方でも開催することとした。平成26年はその初年度として大友宗麟が移り住んだ臼杵市で開催し、平成27年は竹田市、平成28年は豊後高田市、平成29年は玖珠、令和2年度は佐伯市令和3年度は日田市（地方で6回目）で開催した。 ○ より多くの方々が参加できるイベントを開催する必要がある。 ○ 資金不足をどう克服していくかが大きな課題。 ○ 今後も続くと思われる「コロナ禍」での対応が課題。

あなたが支える市民活動応援事業補助金申請事業収支決算書

事業の名称：大友氏顕彰フォーラム

1 【収入】

(単位:円)

項目	金額	説明 (積算等)
補助金収入	300,000	1%応援事業 30万円
会費収入	168,676	会費より繰り入れ収入
事業収入	29,000	本『大友氏の風景(十)』販売収入
寄附金収入	175,000	本『大友氏の風景(十)』協賛広告収入
合計	672,676	

2 【支出】

(単位:円)

項目	金額	説明 (積算等)
旅費	7,453	○ 広報活動ガソリン代 (対象外)
消耗品費	152,072	○ コピー用紙代 53,071 円
		○ プリンターインク代 90,960円
		○ 封筒等事務用品代 8,041 円
印刷製本費	271,500	○ 本『大友氏の風景(十)』本文印刷代 36,300円
		○ 本『大友氏の風景(十)』製本代 233,200円
		○ フォーラム資料・印刷代 2,000円
通信運搬費	66,221	○ 会員・本投稿者・協賛広告企業等への郵送料
手数料・委託費	82,500	○ チラシ代 59,400円 横断幕代 23,100円 (対象外)
使用料・賃借料	92,930	○ 会場使用料 (コンパルホール)
合計	672,676	うち、対象経費 642,123円

備考 補助金の交付対象となる事業に要する経費を記入してください、なお、実績報告書の提出時に収支決算書とともに領収書を添付する必要があります。

活動目標報告書

1. 自己収益(※)拡大に向けて

(1) 目標としていた自己収益金の総額 円

(2) 今年度の自己収益金の総額 円 (R4年10月末現在)

(3) 自己収益拡大に向けた具体的な取り組み(目標を達成できなかった場合は、その理由と改善策)

10月末までの収入は、会費収入(65万円)、本広告協賛金(18万円)、小田原・鎌倉研修旅行代金(120万円)など、収入実績は(253万円)となる。これは昨年実績(148万円)より大幅に増加(105万円)している。、新型コロナ禍の中でも、何とか小田原・鎌倉研修旅行を実施できたのが大きな原因で、自己収益金の目標を達成できる見込み。

記入例: 会員加入の呼び掛けを行った結果、入会者の獲得に成功し、会費収入を増加させることができた。

協賛企業の呼び掛けをこれまで以上に実施してきたが、景気の流れに左右されることもあり、新規開拓はできなかった。

来年度も企業への呼び掛けを継続し、企業協賛金の拡大に努めていきたい。 など

2. 受益対象者を増加させるための取り組み

(1) 目標としていた受益対象者数 人

(2) 今年度の受益対象者数 人 (R4年10月末現在)

(3) 受益対象者増に向けた具体的な取り組み(目標に届かなかった場合はその理由と改善策)

10月までの実績は、会費納入者(136人)、フォーラム記念として出版した『大友氏の風景(十)』の協賛広告企業は(21社)。大友氏顕彰フォーラム参加者(150人)。定例学習会・6回(115人)、宗麟公供養祭(10人)、小田原・鎌倉研修旅行参加者(15人)など受益対象者総数(447人)となる。これは昨年実績(464人)より少し減少している。この原因も、新型コロナ禍の影響で、5月予定の総会や毎年実施している豊府小学校6年生への「宗麟公の出前授業」等が中止。今後も1月～3月に予定の「新春の集い」や「交流会」を開催できるかどうか不明の状況。